



芸術文化振興基金助成事業

TOKYO NEW CITY ORCHESTRA

TOKYO NEW CITY ORCHESTRA

東京ニューシティ管弦楽団 第59回定期演奏会

2009年1月11日(日) 14時30分開演

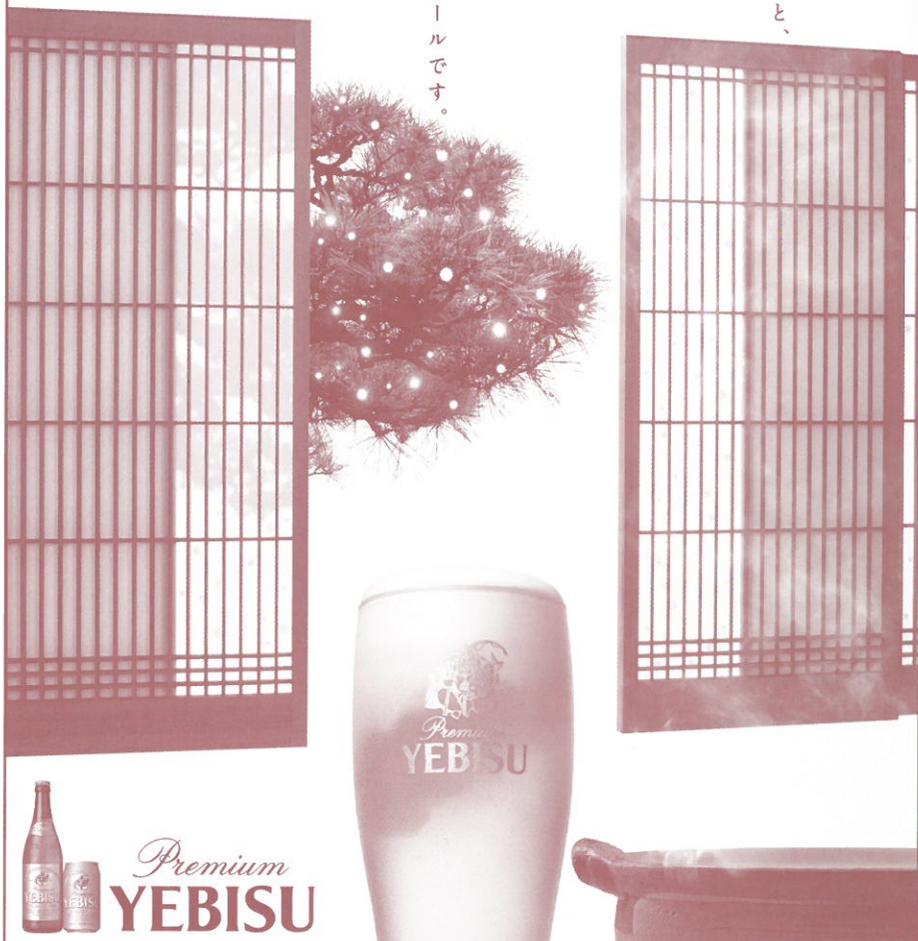
北とぴあさくらホール HOKUTOPIA Sakura Hall

主催:東京ニューシティ管弦楽団

共催:財団法人 北区文化振興財団

たまにはゆっくりと、
雪でも御覧に
いらっしゃい。

エビス。
ちょっと贅沢なビールです。



飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は楽しく適量で。のんだあとはリサイクル。

おいしさも、安心も、サッポロビールは
すべて責任品質

サッポロビール株式会社
www.yebisubar.jp



SHEAFFER*

The Signature Pen
SINCE 1917



芸術文化振興基金助成事業

TOKYO NEW CITY ORCHESTRA

TOKYO NEW CITY ORCHESTRA

書くこと、それは音楽に似ている。

川のようにゆるやかに、
流れるままに。
思いを
文字にのせて
誰かにそっと届けている。

スタイルをもつペン—The Signature Pen, Sheaffer

—シェafferは東京ニューシティ管弦楽団を応援しています。—

BIC ジャパン株式会社 〒104-0042 東京都中央区入船 2-3-7 TEL 03-5542-2444 www.sheaffer.jp

東京ニューシティ管弦楽団

第58回定期演奏会

2008年11月17日(月) 19時開演

東京オペラシティコンサートホール

Tokyo Opera City Concert Hall Takemitsu memorial

主催:東京ニューシティ管弦楽団

第59回定期演奏会

平成20年度芸術文化振興基金助成事業

Ⅲ ウィンナワルツとオペレッタと名曲のコンサートⅢ

指揮:内藤 彰	Conductor: NAITO Akira
ソプラノ: 鶴木 絵里	Soprano: UNOKI Eri
フルート: 小山 裕幾	Flute: KOYAMA Yuki
ハーブ: 篠崎 和子	Harp: SHINOZAKI Kazuko
コンサートマスター: 浜野 考史	Concertmaster: HAMANO Takashi

オッフエンバック 序曲「天国と地獄」

Orpheus in the Underworld: Overture (Offenbach Jacques)

モーツァルト フルードとハーブのための協奏曲 ハ長調

Concert, Flute & Harp, K.299, G major (Wolfgang Amadeus Mozart)

フルード: 小山 裕幾 ハーブ: 篠崎 和子

ラヴェル ボレロ

Bolero (Maurice Ravel)

休憩15分—intermission [15']

The 59th Subscription Concert

NEW YEAR
CONCERT

PROGRAM



J.シュトラウスⅡ ワルツ「春の声」 op.410

Voices of Spring op.410 (Strauss Johann II)

ソプラノ: 鶴木 絵里

ヨゼフ・シュトラウス ポルカ「憂いもなく」

Without a Care! Polka Op.271

ヨゼフ・シュトラウス ワルツ「わが人生は愛と喜び」

My Character is Love and Joy waltz op.263 (Josef Strauss)

J.シュトラウスⅡ 山賊のギャロップ op.378

Bandits' Galop op.378

J.シュトラウスⅡ 喜歌劇「こうもり」より「侯爵様あなたは」

A literal translation "Sir, what would you think of me" (Strauss Johann II)

ソプラノ: 鶴木 絵里

ヨゼフ・シュトラウス ポルカ「短いことづて」 op.240

Letters to the Editor Polka op.240 (Josef Strauss)

J.シュトラウスⅡ ワルツ「美しく青きドナウ」 op.314

On the Beautiful Blue Danube op.314 (Strauss Johann II)

※全曲ピリオド奏法で演奏いたします。

お願い 演奏中は、携帯電話・アラーム付時計等は演奏の妨げにならないようご配慮ください。
他のお客様のご迷惑になる様なご行為は慎んで頂きますようお願い申し上げます。



プログラムの後半は、ニューイヤー・コンサートの名にふさわしく、ヨハン・シュトラウス2世(1825-1899)とその弟ヨゼフ・シュトラウス(1827-1870)によるウイナ・ワルツを中心に構成した。

農民の舞踏に始まったワルツという舞曲が、貴族(とりわけオーストリアのハプスブルク宮廷)の文化に採り入れられたのは18世紀のことである。その音楽を上流階級向けのものに洗練させていったのが、19世紀前半に活躍したヨーゼフ・ランナーとヨハン・シュトラウス1世であって、後者の息子たち、ヨハン2世とヨゼフ、それにエドゥアルトの時代に、ワルツは一気にオーストリアの首都ウィーンを代表する芸術へと押し上げられた。

ヨハン・シュトラウス2世のワルツ『春の声』は、彼の作曲した数百曲に及ぶワルツの中でも、特に有名な作品の一つといえる。元来はソプラノ歌手のための技巧的な歌曲として作曲され、こんにちでは独唱入りと独唱なしの、2種類の

演奏が行われる。ここではソプラノの鶴木絵里を迎えて、初演時と同じ歌曲の形式で演奏する。

ヨハン2世の弟ヨゼフは、体が弱く、若くして亡くなったために知名度の点で兄に引けをとるものの、あふれんばかりの才能を感じさせる作品を多数残した。ここではまず**ポルカ『憂いもなく』**をお聴きいただく。ポルカはボヘミア起源の舞曲で、2拍子の歯切れのよいリズムを特徴とする。

ヨハン2世による『**山賊**』はギャロップ舞曲である。『天国と地獄』にも登場するギャロップとは、本来馬術における全速力での走りを意味し、そこから2拍子の速いテンポによる舞曲としてギャロップが考案された。

ヨゼフのワルツは有名な『オーストリアの村つばめ』や『天体の音楽』など、幻想的でロマチックな作風の際立ったものが多い。『**わが人生は愛と喜び**』もそうした濃厚な情緒をふり

まく音楽のひとつである。

もう一つヨゼフの作品から、**ポルカ『短いことづて』**をはさんで、ヨハン・シュトラウス2世の**オペレッタ『こうもり』第2幕より、「公爵様あなたのような方は」**を採り上げる。実業家アイゼンシュタインのメイドであるアデーレは、休日をもってオルロフスキー邸の舞踏会に出かける。身分を隠すためにオルガという名の女優のふりをするものの、主人であるアイゼンシュタインと出くわして正体がばれそうになる。主人の疑惑を笑い飛ばしてごまかす華やかなアデーレの歌「公爵様あなたのような方は」は、「アデーレの笑いの歌」としても知られている。

プログラム最後は、ニューイヤー・コンサートの定番ともいべきヨハン2世の『**美しく青きドナウ**』でしめくくる。1866年にいったん男性合唱曲として発表されたものの、聴衆の反応が悪く、いったんは失敗作と見なされた。その後管弦楽のみによる作品に書きかえて翌年のパ

リ万国博で演奏したところ、20回もアンコールされるほどの大成功を収め、今ではウイナ・ワルツすべてを代表する作品として親しまれている。ヨハン2世からサインを頼まれた作曲家ヨハネス・ブラームスが、この曲の旋律を書き写した横に「私の作品でないのが残念」と記した逸話は有名である。

指揮者内藤彰は、ノン・ヴィブラートを基本としたピリオド奏法の研究と実践によって知られているが、彼自身こよなく愛するウイナ・ワルツの奏法についても、1895年のヨハン・シュトラウス2世自身による歴史的録音に始まり、20世紀初頭のウイナ・ワルツや、当時のヨーロッパで広く愛好されたジプシー・オーケストラによるワルツ演奏などについて研究を重ねた。その結果として、ヴィブラートやホルタメントの使用法を本来のかたちに戻した、真正のウイナ・ワルツ演奏をここで披露する次第である。今まで慣れ親しんだワルツの響きとは大きく異なるであろう演奏を、心ゆくまで楽しんでいただきたい。